

エムダイヤ 佐藤鉄工 リョーシン

循環型社会へ連携

法人設立 交流や共同販売

県内のリサイクル機械メーカー3社が「一般社団法人リサイクル機械工業会」を設立した。一般社団法人は、人的交流を進めながら、3社の製品の共同販売など



握手を交わす(左から)坂本社長、森社長、高野社長＝県民会館

に取り組む。リサイクル需要が急速に高まっていることから、3社の強みを生かして対応するのが狙い。法人格を得たことで国や県の支援を受けやすくなったため、公的な補助金を活用して業界の人手不足解消も目指す。

17日に3社が県民会館で記者会見して発表した。3社は、エムダイヤ(滑川市中村、森弘吉社長)、佐藤鉄工(立山町鉾木、坂本良文社長)、リョーシン(富山市婦中町地角、高野晃社長)で、5月7日にリサイクル機械工業会を設立した。エムダイヤは廃棄物の剥離や切断、佐藤鉄工は廃棄

物の破碎や分離技術に強みを持つ。リョーシンは機器の製造販売に加え、海外製品の輸入販売などを手がける。3社の得意分野が異なることから、一般社団法人の取り組みの中で補完し合うことを目指す。

具体的活動は、3社の社員が互いの工場を見学し、他社の得意分野や製品への理解を深める。顧客であるリサイクル業者から製品の問い合わせがあった場合、内容に応じて他の2社の製品を推薦するなど、営業・販売面で協力し合う。

人材確保に向け、リサイクル機械工業会として3社合同の採用説明会の開催を検討するほか、製品展示会への出展や海外出品も視野に入れる。

会見で、代表理事に就いたエムダイヤの森社長は「業界の課題に対応するのは1社単独では限界がある。3社の強みとノウハウ

を持ち寄りたい」と述べた。坂本社長と高野社長は理事に就き、業界の人材不足に

ついて「現状は厳しい」解消に向けて協力していきたい」などと語った。